

千葉県知事

森田 健作 殿

袖ヶ浦福祉センター養育園での暴行・死亡事件に対する声明

袖ヶ浦福祉センター養育園で、職員5人が10人もの利用者への虐待を繰り返しており、このうち腹を蹴られた19歳の重い知的障害のある少年が死亡したとの報道がありました。事実であれば許すことのできない犯罪であり、誠に遺憾であります。亡くなられた少年のご冥福を心からお祈りすると共に、ご家族にお悔やみ申し上げます。

私たち知的障害をもつ子どもの家族は、子どもの誕生、幼少時から慈しみながら養育してきましたが、障害の重さや問題行動等への対応に難渋したり、理解が広がったとはいえ障害者への社会の受け入れは厳しいものがあるなどの、いろいろな事情で子どもを入所施設にお願いしております。

子どもたちの支援には、利用している施設職員の方々に大変なお世話と支援を頂戴しており、感謝をしております。

しかし今回、模範とすべき県立の福祉施設でこの様な虐待が日常的に行われていたことに、大きな衝撃を受け、不安と動揺を禁じ得ません。

報道によれば、「暴行があった第2寮では、担当する職員は、20～30歳代の職員が多く、暴行を認めた5人は3人が正規職員で2人が契約職員、勤務年数は、もっとも長い職員で約9年、1年未満の職員もいた。そして2～3年で他の施設に移動」となっております。この報道内容から推察して、入所者への支援は十分に行き届いていたのでしょうか、比較的若い正規職員と契約職員に対する職場の指導管理体制は適切になされていたのでしょうかと疑問に思います。

多くの他の支援施設では日夜、努力に努力を重ね利用者の支援に当たっておられます。心無い一施設の問題で、すべての支援施設が悪いというイメージを世間一般に与えるならば悲しいことであり残念でなりません。

早急な原因究明と共に、真相解明、再発防止を強く要望します。

そして、今後知的障害をもつ人への人権擁護と安心安全な生活が維持されることを切に望み、支援体制の見直しと強化をお願いします。

平成25年12月20日

千葉県知的障害者支援施設家族会連合会

会長 篠島 治男